

18-19 世紀アメリカのシェーカー教集会所建築

－植民地建築からの形態的発達と礼拝行為に基づく空間的特殊性の獲得過程の研究－

2021.02.06

中谷研究室 The Believers ゼミ
修士 2 年 福居 彩未

【目次構成】

【序論】	
第 1 章	本研究について
1-1	はじめに
1-2	研究目的
1-3	研究方法
1-4	既往研究と本研究の位置づけ
1-5	用語
【本論】	
第 2 章	18 世紀末：東海岸地域と東部シェーカー
2-1	ニューイングランド周辺地域の集会所
2-1-1	入植以降のニューイングランド周辺地域の建築状況
2-1-2	集会所の持つ宗教性と市民性
2-1-3	17-18 世紀の集会所：コロニアル様式とジョージアン様式
2-1-4	まとめ
2-2	東部シェーカーの集会所
2-2-1	地上の千年王国への集結
2-2-2	18 世紀の集会所：「シェーカー教の集会所」の原型
2-2-3	礼拝に因る空間的特性の発現
2-2-4	まとめ
2-3	小結
第 3 章	19 世紀初頭：フロンティアと西部シェーカー
3-1	フロンティアの集会所
3-1-1	第二次大覚醒期の野外集会場
3-1-2	第二次大覚醒期の都市の集会所
3-1-3	まとめ
3-2	西部シェーカーの集会所
3-2-1	シェーカーの西進と共同体の再生産
3-2-2	煉瓦の集会所：原型と規定からの逸脱
3-2-3	まとめ
3-3	小結
第 4 章	19 世紀：建築様式の統一とシェーカー・デザインの確立
4-1	建築の単一化
4-1-1	19 世紀：教会の復興
4-1-2	建築書の普及
4-1-3	まとめ
4-2	「シェーカー教の集会所」の完成
4-2-1	木構造技術の飛躍的向上
4-2-2	「兆しの時代」におけるシェーカーの厳格化
4-2-3	まとめ
4-3	小結
第 5 章	考察 シェーカー教の集会所 変化と継承
5-1	腰折れ屋根の流行と集会所および教会の屋根形式の不一致について
5-2	シェーカー教の集会所に腰折れ屋根が採用された理由について
5-3	アメリカの木造建築技術の発展と集会所・教会の変化について
5-4	シェーカー教の木造建築技術の発展と「シェーカー・デザイン」の再考
【結論】	
第 6 章	結論
	資料編
	参考文献
	図版出典
	謝辞

第 1 章 本研究について

研究背景と目的

アメリカの 17 世紀の入植以降の建築史は、コロニアル様式に始まった。宗主国や土地の環境によって異なる種々の様式の建築は、住宅や簡易的な宗教建築、公共建築という実作を通して発達し、様々な外的要因から影響を受けながら現代まで発展し続けてきた。その中でも、フロンティアの生活を宗教的・社会的な点において支えてきたキリスト教の集会所と教会は、17-19 世紀アメリカ建築史の主役とも言えるものであった。本研究は、このような歴史的背景を持つアメリカにおいて、18-20 世紀の間に独自の宗教観にもとづいた共同体生活を実践した新興キリスト教宗派であるシェーカー教の建築デザインについて、その最重要建物である集会所を対象として建築的な分析を行うものである。シェーカー教のデザインが様々な土着の建築様式の影響を受けながらも最終的に独

自の様式に至ったことは、18-19 世紀のアメリカ建築史の傍系として注目に値する。シェーカー教の全 18 の集会所と、同時期のアメリカ国内の一般的な集会所・教会について、建築的特徴を抽出して比較分析を行うことで、シェーカー教の集会所のデザインの原型となった様式および宗教観に基づいた特殊な設計に至った経緯を明らかにしたうえで、シェーカー内部の特殊性に対する視点のみならず、外部の建築の形態的変化の動向やその背景（西漸運動、宗教運動、その他建築を取り巻く環境の変化）に対する視点を併せた複眼的な分析を通して、「集会所におけるシェーカー・デザイン」を再定義することを研究目的とした。

研究方法

本研究では、シェーカーの初期共同体（18 世紀末、ニューイングランド地域）11 ヲ所、および西部共同体（19 世紀初頭、オハイオ州とケンタッキー州）7 ヲ所の計 18 ヲ所に建設された集会所を対象とする。

対象を時代と年代により全体を大きく 3 つの章に分け、シェーカー内部の礼拝記録と生活記録、シェーカー外部の歴史記録と、地理条件および当時の建築の特徴を踏まえて分析する。以下の 3 点を分析の軸とする。

- ①建築構法やデザインの地理・文化的文脈からの分析
- ②使用者の属性（所属・役職・性別）とデザインの因果関係の分析
- ③実際の使用方法の調査に基づく時間的・動的な視点からの分析

分析に際しては参考文献リストに挙げた書籍のほか、アメリカ合衆国の公式調査機関である Historic American Buildings Survey (HABS) および National Register of Historic Places (NRHP) の建築物調査記録図面、写真、報告文書を利用する。

主要な既往研究

1.Edmund W. Sinnott 『Meetinghouse & church in early New England』(Bonanza Books, 1963)

ニューイングランド地域に 17 世紀～ 1830 年代に建設され、1963 年時点で現存した 503 棟の集会所を網羅し、その年代や形式、構法等について記す。集会所やアメリカの公共建築の研究において頻繁に参照される著名な研究である。

様式の大枠を越え、平面および立面の要素ごとに特徴を捉え、形態面に着目した緻密な分析手法をとっている点で研究手法の参考になる。

2.Arthur E. Mclendon 「"Leap and Shout, Ye Living Building!" Ritual Performance and Architectural Collaboration in Early Shaker Meetinghouses」『Buildings and Landscapes 20, No.2 Fall 2013』pp.48-76 (University of Minnesota Press, 2013)

初期シェーカー共同体の集会所の様式について、当時の東海岸のコロニアル建築と比較する視点から、宗教教義のみに留まらず実際の礼拝行為と建築デザインの連関を考察している。本研究の第 2 章の先行研究にあたる。

集会所に関連する既往研究は、実際の写真や実測図面を用い、建築史における様式的観点から形態分析を行うものが主流である。シェーカーの集会所についても近年には同様の手法をとる研究がみられ、その特殊性のみならず集会所建築史全体に対する位置づけを行うものもある。しかし、研究対象は初期の東海岸地域の特定の集会所に偏る傾向がある。

本研究は、1.Sinnott (1963) および 2.Mclendon (2013) のような、18 世紀東海岸地域という局地的な集会所の詳細研究における形態分析の手法を踏襲しながら、19 世紀のフロンティア地域でのシェーカーの活動にも焦点を当て、18 世紀と 19 世紀、東海岸地域とフロンティア地域という時間的・空間的広さを持って横断的な分析を行うものである。

第 2 章 18 世紀末の東海岸と東部シェーカー

本章では、18 世紀のニューイングランドおよびニューヨーク州のシェーカー教東部共同体の集会所を対象に、建築的要素ごとに特徴を分析することで同時期の一般的な集会所・教会との比較を行った。

■ 2-1 ニューイングランド地域の集会所

まず、2-1-1 入植以降のニューイングランド周辺地域の建築状況で入植以降 18 世紀までのアメリカの建築状況についてまとめた。特徴として、寒冷な気候条件と限定的な入手可能材料ために、木造フレーム構法が大多数であったことを確認した。次に、2-1-2 集会所の持つ宗教性と市民性にて 17 世紀の集会所の特徴として、西欧のカトリックの教会堂の要素を排除し機能性に特化したプロテスタントの建築であることを確認した。また、教会と町政が密接に関係していたことから、集会所は非宗教的な用途で使用できる町役場の側面があり、新大陸の生活の中心であったことを確認した。2-1-3 17-18 世紀の集会所：コロニアル様式とジョージアン様式では、18 世紀の間の都市の人口の・経済的成長や、聖公会などイギリス系の宗派の教会デザインの流入の影響によって集会所が徐々に装飾的や宗教的儀式性を獲得し、「教会」へと変化していく過渡期の様子を確認した。特に、平面形式と屋根形式の変化の分析において木造構法で内部空間を拡大するための工夫がみられ、同型のトラスを複数並べる形の切妻屋根が一般化し、それに併せて平面が長方形に伸長した経緯が明らかになった。

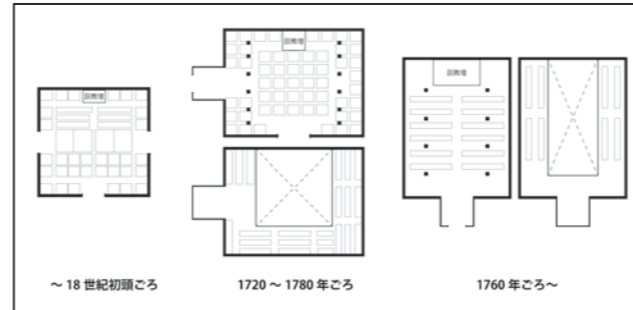


図 1. ニューイングランドの集会所 平面の変遷

■ 2-2 東部シェーカーの集会所

■ 2-2-1 地上の千年王国への集結

シェーカー教の初期の集会所の建設について、1786 年より実践された共同体設計および統治の指針「ゴスペル・オーダー」の影響を確認した。建築設計技術を持って入信した教徒モーゼス・ジョンソン (Moses Johnson, 1752-1842) に当時建設されたほとんど全ての集会所の設計を一任してそのデザインを統一することにより、共同体内の結束、および共同体の枠組みを超えたシェーカー教全体としての統一感を作ったことが確認できた。

■ 2-2-2 18 世紀の集会所：「シェーカー教の集会所」の原型

2-1-3 の分析とシェーカー教の集会所の比較を通して、シェーカー教がニューイングランド・コロニアル様式の集会所・教会の構法や概形を踏襲した一方で、2 階床部の大型の梁や腰折れ屋根の構造にはニューヨーク州のハドソン川流域の住宅にみられるダッチ・コロニアル様式の構造を利用したことが確認できた。大梁は通常の住宅設計時の 1.5 倍ほど多く、密に配置されており、集会所の天井を支えるための工夫が見受けられる。シェーカー教ではそのこのような複数地域由来の建築様式の折衷に加えて、独自の規則や礼拝方法に応じた特徴的な設計として、複数の入口配置による男女別の動線計画、礼拝のために最小限化した室内設備、装飾と塗装の方法の統一を確認した。また、比較分析により、新たな特殊設計要素として以下が示された。

- ①入口と窓、ドーマーの配置において、左右対称性が徹底されているものの、垂直方向の連続性への配慮が希薄である。
- ②鐘が世俗的な用途に用いられるため、一般的な集会所・教会にみられる鐘楼・鐘塔が集会所ではなく住居に付属する。
- ③入口と階段の計画において、指導者と一般教徒の動線を分離する意図がみられる。



図 2. Shaker Meeting House Shirley (1793) 内観 図 3. Shirley (1793) 集会所天井の方角

■ 2-2-3 礼拝に因る空間的特性の発現

シェーカー教の共同生活規則を定めた書籍『Millennial Laws』および共同体に滞在した記者や教徒によって書かれた手記をもとに、礼拝時の習わしと教徒の動きと集会所の設計の関係を分析した。集会所は非常に質素なつくりで、ダンスを妨げぬように無柱空間かつ室内の備え付け設備も最小限であるため、教会の廊形式のように空間の方位性やヒエラルキーを定める物が存在しない。しかし、礼拝時の教徒の隊列 (rank) 形成やダンスの動作によって空間が一時的に男女別＝左右に分割された。さらに、男女の隊列の間の空間は祭壇 (altar) 呼ばれて神聖な場所として認識されていたことから、集会所は教徒が使用することによって一時的な空間特性を得ることが明らかになった。

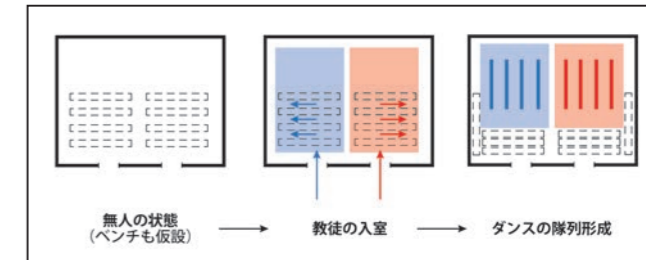


図 4. 礼拝行為による集会所の左右決定のイメージ

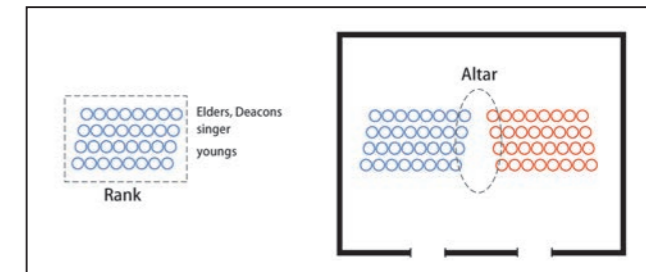


図 5. 礼拝時の隊列形成のイメージ

第 3 章 19 世紀初頭のフロンティアと西部シェーカー

本章では、19 世紀初頭の中西部フロンティアのシェーカー教西部共同体の集会所を対象に、第二次大覚醒期のリバイバル派の集会所 / 反リバイバル派の教会との比較分析を行った。

■ 3-1 フロンティアの集会所

■ 3-1-1 第二次大覚醒期の野外集会場ではまず、19 世紀初頭のフロンティアにおける建築活動の状況を確認した。開拓間もないフロンティアの郊外では入植初期の建築様式に匹敵する、ログハウスなどの簡素な建物が多く建てられた。また、第二次大覚醒期にフロンティアで起こった野外集会の様子と、その代表的な集会所について確認した。多数のリバイバル派教会と聴衆が一時的に集結する野外集会では、仮設性の高い非常に質素な切妻屋根型のログハウスの集会所が建設されたことを調査図面と教会の記録より確認した。一方、■ 3-1-2 第二次大覚醒期の都市の集会所では野外集会に否定的な態度をとったフロンティア都市部の教会の例を確認した。これらの教会では野外集会の無秩序さを批判し都市の教会の高級さを顕示するために、煉瓦造の大型教会を建設した。以上の背景より、19 世紀初頭の中西部フロンティアでは、都市と郊外で異なる宗教的景観が形成され、複雑な状況になっていた。

■ 3-2 西部シェーカーの集会所

■ 3-2-1 シェーカーの西進と共同体の再生産

シェーカー教は東部共同体を模範として新たな共同体の設計を行ったため、西部でも初期と類似の集会所の設計を継続した。ただし、Pleasant Hill の集会所 (1820, KY) の実地調査にもとづいた建物分析を通して、屋根形式が切妻屋根に変更された点においてはシェーカー教がリバイバル派として野外集会所に参加した経緯の影響が新たに推察された。また、共同体内での製材技術の発達と設計技術の成熟により、2階床の支持構造が発達し、ダッチ・コロニアル式大梁ではなく屋根トラスの一部である柱による吊り構造で床部を支持するようになったことを確認した。結果的に、集会所の平面概形はそのままに床面積が約2倍に大型化した点を特徴として指摘した。さらに、礼拝の方法には変化がないが、ミニストリーと教徒の動線の分離において、デザインの洗練がみられた。



図 6. 集会所の天井を支える梁を吊るためのトラス構造

■ 3-2-2 煉瓦の集会所：原型と規定からの逸脱

White Water 共同体の集会所 (1827, OH) の建築分析を通して、集会所の構法としては前例の無い煉瓦造の採用の経緯について論じた。『Millennial Laws』で定められた「集会所の外観は華美なもの控える」という規定を破って煉瓦造の集会所を建設した理由について、他の建築群との比較などから、集会所の建設には特に故意に行われたことを推測した。また、内外装の塗装色も『Millennial Laws』の規定から逸脱しており、これらもデザイン行為として選択されたものであると推測した。

第 4 章 19 世紀：建築様式の統一とシェーカー・デザインの確立

本章では、19 世紀前期の、東部共同体に新設された 2 棟目の集会所を対象に、市中の一般的な教会との比較分析を行った。

■ 4-1 建築の単一化

まず、■ 4-1-1 19 世紀：教会の復興において、まず、19 世紀アメリカの教会にひろくみられる建築的特徴を既往研究を参照してまとめた。18 世紀末には過渡期を迎えていた教会形式への移行は 19 世紀初頭にはほぼ完了した。19 世紀の教会デザインが、母屋の大部分においては 18 世紀のものよりほとんど変化しておらず、ポーチの追加や窓・ドアなどの装飾の増加など、外面的な装飾部分に集中して変化がみられることを確認した。また、■ 4-1-2 建築書の普及では、18 世紀以降に発行されたイギリスとアメリカの建築書の内容について調査し、前項で確認した 19 世紀の集会所のその背景に、イギリスの建築作品からアメリカの建築家への直接的な影響と、建築書のような出版物を通じたデザインの伝播の両方が影響していたことを確認した。伝統的な木造フレーム構法を継承しつつも、聖公会の教会デザインや建築書に掲載されたイギリスのルネサンス建築に影響を受けた強い装飾性をもつ 19 世紀アメリカの教会は、もはやアメリカ独自の建築様式と呼べるほどの、新しい構造とデザインになった。

■ 4-2 「シェーカー教の集会所」の完成

■ 4-2-1 木構造技術の飛躍的向上

一般的な集会所では製材方法、構法、設計に大きな変化が無く表面的

に装飾が増加するに留まった一方で、シェーカー教では共同体規模の拡大への対応と外界に対する礼拝の公開方法の模索から、従来と大きく異なる新しいデザインの集会所が建設されたことを確認した。この新しいデザインは当時シェーカー教が最先端であった製材技術の進歩や、新しい屋根構造の発明によって実現したものであることを明らかにした。特に、初期のシェーカー教集会所の約 4 倍もの面積の無柱の集会所を生んだ Mount Lebanon (1824) の集会所のパレル・アーチ型の屋根構造について、構法的特徴を詳細に分析し、当時の橋梁設計のデザインに通じる点を確認した。また、平面分析により、集会所には男女分離の原則に応じた初期から続くデザインが継承されており、そこに新しく非教徒用の動線設計を組み合わせることで、男女別のゾーニング以上に発展したシェーカー教史上最も複雑な空間特性を獲得したことを明らかにした。

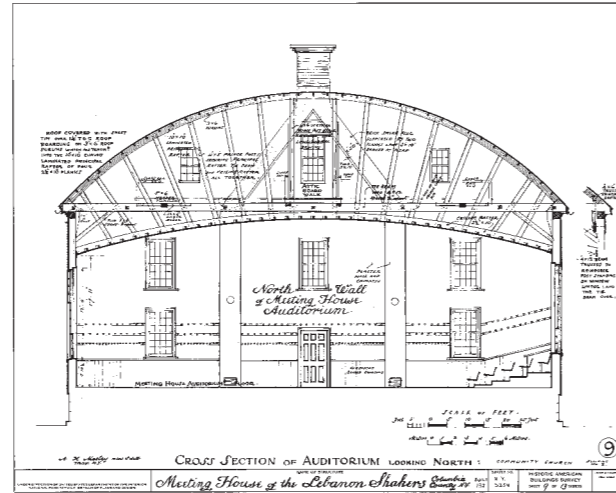


図 7. Mount Lebanon の集会所 (1824) のパレル・アーチ構造



図 8 Mount Lebanon の集会所 (1824) の動線計画

■ 4-2-2 「兆しの時代」におけるシェーカーの厳格化

Mount Lebanon でシェーカー教最大の集会所が完成してからさらに約 20 年後、Watervliet にシェーカー教最後の集会所 (1846) が建設された。19 世紀の最初の四半世紀に、シェーカー教共同体は教徒人口と外部からの注目いづれにおいても最盛期を迎え、積極的に外部へ集会所を公開していた。しかし、次第に見学者からの妨害や侮辱行為が増加し、1830 年ごろに外界からの影響で共同体内の風紀と宗教的な意識が大きく乱れる時期を迎えた。その結果として、一部の共同体では 1840 年代には一時集会所を完全非公開とし外界と距離を置いた。一方、教徒の間では宗教意識の復興が図られ、その結果皆が神からのお告げや幻視を頻繁に授かるようになった。この時期はシェーカー教で「兆しの時代 (Era of Manifestation)」と呼ばれた。その最中に建設された Watervliet の集会所の分析によって、建物の規模や、ミニストリーの住居を別にする構造においては Mount Lebanon の集会所 (1824) が大いに参照されていることが明らかになった。一方、集会所の建設に外部の労働者を雇わない徹底ぶりや、前例のないデザインの観覧席の整備からは、非教徒との接触を極力避け、あくまで礼拝の観客としてのみ非教徒を迎え入れる姿勢が伺えた。

第 5 章 考察 シェーカー教の集会所 変化と継承

本章では、第 2 章から第 4 章までの分析を通して議論の余地が残った事項と、シェーカーの集会所の通史から考える「シェーカー・デザイン」について、考察を加えた。

■ 5-1-1 腰折れ屋根の流行と集会所および教会の屋根形式の不一致について

本項では、アメリカにおける腰折れ屋根の流行の経緯を整理し、一般的な流行にもかかわらず、腰折れ屋根型の集会所や教会の例が少ない理由を考察した。もともと腰折れ屋根はその内部に屋根裏 (attic) として居室を作ることが目的の構造であり、このことは建築書にも明記されている。したがって、17-18 世紀のニューイングランドと 19 世紀のニューヨークのいづれにおいても、腰折れ屋根は住宅に最も多く利用されている。一方で、集会所および教会は 1 階建て、または上階部分がギャラリーになっている 2 階建てであり、屋根裏を使用する必要がなかった。そのため、ほとんどの集会所・教会ではあえて腰折れ屋根を利用しなかったと考えられる。

■ 5-2-2 シェーカー教の集会所に腰折れ屋根が採用された理由について

本項では、18 世紀のシェーカー教の共同体にイギリス由来の構造かつニューイングランド式デザインの腰折れ屋根が用いられた理由を考察した。まず、構造的な視点からダッチ・コロニアル式とニューイングランド式の腰折れ屋根を比較し、ニューイングランド式では屋根 2 段目の勾配が急であるため、2 階床高さ以上に柱を伸ばさず、かつ庇をほぼ作らずとも大きな容積を確保できる点が評価されて集会所の屋根に用いられたと推測した。また、意匠的な視点から、腰折れ屋根の場合は 2 階壁面部分がないために、平側の立面に現れる垂直壁面の印象が切妻屋根の場合より薄く、屋根の勾配の切り返しの水平線の効果もあって水平性が強調されていること、また、ニューイングランド式の屋根を用いることで庇が出ないために妻側立面の印象が質素になり、共同体の景観に馴染みやすいと考えられることを述べた。

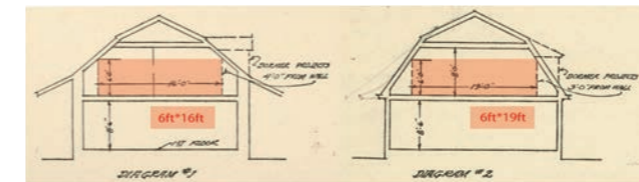


図 9. 腰折れ屋根の模式図を用いた内部構造の比較

■ 5-2-1 アメリカの木造建築技術の発展と集会所・教会の変化について

本項では、第 2 章から第 4 章までで確認した 17 世紀から 19 世紀までの集会所と教会の変化の過程の全体を踏まえて、その過程と木造技術の変遷との相互関係を考察した。この期間にアメリカの建築界は聖公会の教会建築の影響や、イギリスの都市のルネサンス建築の影響を大きく受けたが、アメリカの建築家たちは木造フレーム構法を用いてそれらの表面的な意匠を再現することに注力した。これは、構法技術の発展の乏しさ、特に製材技術が 18 世紀初頭よりほとんど変化せず、斧・鋸・鋸を使った手作業が慣習的に続けられたことが原因で母屋部分の構造を大きく変更できなかったためであると推察した。

■ 5-2-2 シェーカーの木造建築技術の発展と「シェーカー・デザイン」の再考

本項では、第 2 章から第 4 章までの比較分析を踏まえ、「シェーカー・デザイン」の再定義を試みた。一般にはその簡素さと礼拝に応じた機能性に特化して評価される傾向があるが、シェーカー教の集会所と同時代の一般的な集会所・教会との比較や、シェーカー教内での集会所の発展経過をもとに考えると、「シェーカー・デザイン」の簡素さの裏には高い木造フレーム構法の設計・施工技術による支えがあることが分かる。また、シェーカー教が製材技術において同時代の一般的な工業技術と比較しても最先端の設備 (製材所、丸鋸) を発明し、共同体内にもっていたことも建築技術の成熟の大きな要因であると考察した。

さらに、「シェーカー・デザイン」の真の特性は礼拝時に最もよく発揮されることを、各時代のシェーカー教集会所の利用時の空間分析から明らかにした。集会所のプレーンな建築において平時には不可視である空間の方位性やヒエラルキーのデザインが、礼拝行為によって顕わになることを示した。また、集会所の動線計画には時代とともに観覧者である非教徒を礼拝行為自体から遠ざけていく環境のアフォーダンスが含まれていることを指摘し、これがシェーカー教と外界を鑑賞物と観覧者として分離し、結果的に礼拝による霊的体験の「共有」が希薄になっていったという推察を述べた。

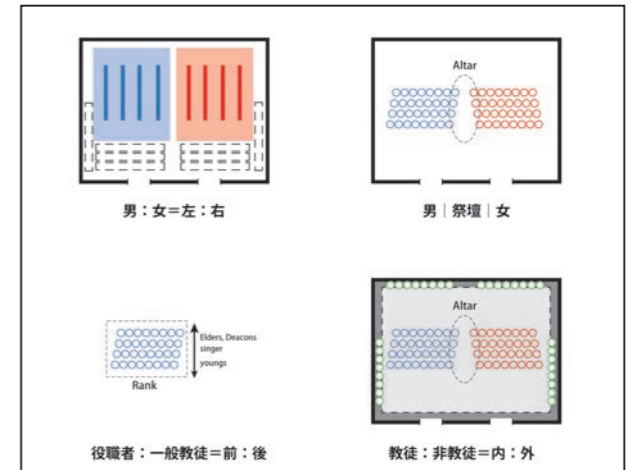


図 10. 18 世紀シェーカー教集会所の礼拝中のゾーニング

【参考文献・既往研究】

■ 主要な参考文献

- [アメリカの地域史・宗教史]
 - Peter W. Williams 『America's religions : traditions and cultures』(Macmillan, 1990)
 - Ray Allen Billington 著 渡辺真治訳『フロンティアの遺産』(研究社、1971)
- [アメリカ建築史]
 - Fiske Kimball 『Domestic architecture of the American colonies and of the early republic』(C. Scribner's Sons, 1922)
 - Hugh Morrison 『Early American Architecture—From the First Colonial Settlements to the National Period』(Dover Edition (Dover Printing, 1987))
- [集会所建築]
 - Benjamin Asher 『The American builder's companion : or, A system of architecture, particularly adapted to the present style of building ; illustrated with seventy copperplate engravings』(R. P. & C. Williams, 1816)
 - Bernard Reymond 著 黒岩俊介訳『プロテスタントの宗教建築』(教文館、2003)
 - Edmund W. Sinnott 『Meetinghouse and Church in Early New England』(McGraw-Hill, 1963)
 - Peter Benes 『Meetinghouse of Early New England』(University of Massachusetts Press, 2012)
- [シェーカー教全般]
 - Edward D. Andrews 『The People Called Shakers』(Oxford University Press, 1953)
 - Edward D. Andrews 『The Community Industries of the Shakers』(Porcupine Press Inc. 1972)
 - Seth Youngs Wells, Calvin Green 『A summary view of the Millennial Church, or United Society of Believers, (commonly called Shakers.) : Comprising the rise, progress and practical order of the Society ; together with the general principles of their faith and testimony. : Published by order of the ministry, in union with the church.』(Albany : Printed by Packard & Van Benthuysen, 1823)
 - Stephen J. Stein 『The Shaker Experience in America』(Yale University Press, 1992)
 - Stephen J. Paterwick 『Historical Dictionary of the Shakers (2nd ed.)』(Rowman&Littlefield, 2017)
- [シェーカー建築]
 - Julie Nicoletta 『The Architecture of the Shakers』(Countryman Press, 1995)
 - J. P. Mclean 『Shakers of Ohio; fugitive papers concerning the Shakers of Ohio, with unpublished manuscripts』(F.J. Heer Printing Co., 1907)
 - Thomas D. Clark, F. Gerald Ham 『Pleasant Hill and its Shakers』(Pleasant Hill Press, 1968) ほか
- 主要な既往研究
 - 佐藤綾子 「建築活動と出版物から見るシェーカー教 教義と実践の相互関係—プレザント・ヒルにおける 19 世紀の活動を主な対象として—」(早稲田大学、2018)
 - 中島拓也 「シェーカーコミュニティの共同生活における空間構造の変遷と連続性」(早稲田大学、2018)
 - 渡邊慧子 「シェーカー教の「集まり」の解明」(早稲田大学、2018)
 - Arthur E. McLendon 「"Leap and Shout, Ye Living Building!" Ritual Performance and Architectural Collaboration in Early Shaker Meetinghouses」『Buildings and Landscapes 20, No.2 Fall 2013』(University of Minnesota Press, 2013) pp.48-76
 - Catherine Lee Carter 『The Role of Theology in the Production of Space in Shaker Societies』(University of Maryland, 2005)
 - Kim A. McBride 『The Importance of Ordered Landscape at Pleasant Hill Shaker Village: Past and Present Issues』『Archeology and Preservation of the Gendered Landscapes』(Springer Science + Business Media, 2010)
 - Samuel Stella 『The Second Great Awakening and the Built Landscape of Missouri』『Journal of Southern Religion (21)』(JSR, 2019) ほか

図版出典

- 図 1 筆者作成
- 図 2 HABS MASS,2-HANC,16-
- 図 3 HABS MASS,2-HANC,16-
- 図 4 筆者作成
- 図 5 筆者作成
- 図 6 筆者撮影 (09/20/2018)
- 図 7 HABS NY,11-NELEB.V,3-
- 図 8 HABS NY,11-NELEB.V,3-
- 図 9 筆者作成
- 図 10 筆者作成